育成センターだより

令和８年度
No. 436
長野市少年育成センター
TEL. 228-8547
FAX. 224-0109

子ども・若者育成支援強調月間（11月）
オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン（11月）
麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動（10月～11月）

年度前半の育成活動



巡回指導では、子どもたちの動きにつながる情報がないか気にしながら巡回します。カラオケボックス、ゲームセンター、映画館前に停められた自転車のステッカー。カラオケを楽しむ小学生・中学生。空き地や空き店舗に集まる子どもたち。カードゲームに夢中な子どもたち。また、街の変化にも気をとめます。公園や空き地にゴミはないか。たばこの吸い殻は落ちていないか。落書きはないか…。

今年は米騒動から始まり、国同士の争いが止まず、物価高が続いています。さらに異常気象、自然災害が後をたちません。世の中が落ち着きません。

こんな時だからこそ、一年の実り多いこの収穫期に、子どもたちの確かな成長をしっかり見届けたいものです。

育成活動の重点



ネットでは相手が誰かわかりません

インターネット、ＳＮＳ、ゲーム機を通じて見えない相手に、つながりや居場所を求める時期です。



そのＡＩの使い方大丈夫

ＡＩも便利だけど使い方を間違えると大変なことになります。



不審電話・不審者の訪問、甘い誘いに要注意

巻き込まれない「事前の対策」家庭・地域が意識して。



心の健康、困ったら相談 相談窓口もっていますか

長期休業明けは要相談。相談に、早すぎることはありません。困る前に、相談を忘れずに。



子どもを支えるネットワークづくり

長野市立浅川小学校長　内山　まどか

子どもたちを取り巻く環境は、年々複雑になり、学校だけで全ての問題に対応することは難しい状況にあります。学校が、外部の方とつながり、子どもたちの支援を行うには、①授業として専門的知見からの情報を伝えていただく、②日頃からのつながりで日常的に支えていただく、または、個々のケースに寄り添って適宜支えていただくことがあると思います。

授業として小学校では、弁護士の方に人権にかかわる授業を、警察の方や安全協会・交通安全教育支援センターの方に交通安全教室を、メディアコーディネーターの方に正しいメディアの使い方をなどなど、様々な分野の方が学校に入ってくださっています。子どもたちは、その都度専門の方の話を聞き、学校の中だけでは得られない学びを広げています。

日々のつながりとしては、いろいろありますが、本校には市内唯一の自転車クラブがあり、その運営に地域の交通安全協会の方々や警察の方が関わってくださっています。毎年交通安全を目指す「子供自転車大会」に参加するために、交通法規などの学科の学習や、自転車実技の練習などを、地域の安全協会の方を中心に指導していただいているのですが、そのつながりを、とてもありがたく感じています。日々の交通安全はもとより、以前起きた殺人事件直後の見守りなど、いざという時に地域の安全協会の方々が動いてくださる安心感を、子どもも保護者も教職員も実感しています。

また、地域の住民自治協議会主催で、「愛のあいさつ運動」を行っていただいています。登校時に校門付近に立ち、子どもたちを見守りながらあいさつをしていただくのですが、地域の子どもを育てるという意識で見ていただいていることがとてもありがたく、子どもたちも知っている大人が見ていてくれるという安心感があります。また、この活動に「愛の」という言葉がついていることがとても素敵で、地域の方々の愛を感じます。

子どもを支えるそれぞれの立場の方々が、少しずつその枠を越えてゆるやかに繋がっていることが、子どもたちの健全な成長に役立っていることを実感しながら、そのネットワークを大事に張り巡らせていきたいと思います。



地域交流を通じた青少年健全育成への取り組み

若槻地区住民自治協議会　青少年部会部会長　松本伸司

若槻地区住民自治協議会には青少年健全育成に関わる２つの部会があります。

一つは青少年の見守りパトロールをおこなう防犯部会。もう一つは地域の子供達のために、大人と子どもの交流の場を作る青少年部会です。この２つがともに活動することで青少年の健全育成に取り組んでいます。

防犯部会は年２７回の地域見守りパトロールをおこない、青少年の非行防止に努めています。最近も小学校の下校時に見守り運動で立っていたら、小学生の女子から「変な人にカメラで撮られた、助けて」と言われ、学校と警察に連絡して対応したという事がありました。

これにたいして青少年部会は、小学生以下の子どもと中学生・大人が同じイベントをおこなう事で世代間交流を図っています。今年度は地域レクリエーション・子ども体験広場・子ども相撲大会をおこないます。区内にある北部中学の生徒さんがボランティアとして多数参加して、大人と一緒になってイベントを作り上げています。（北部中学はボランティア活動が盛んで毎年１００人以上のボランティアが地域で活動しています）特に地域レクリエーションでは、北部中学の体育館に中学生が設計・制作した巨大段ボール迷路を毎年作り子供達と一緒にあそぶだけでなく、ロボコン体験ブースや各種ゲームブースを作り、自分たちが中心になって子どもたちのおもてなしをしています。それを部会員の大人がフォローするという体制で中学生と一緒にイベントをおこなっています。昨年は２００名以上のお子さんが参加しました。



また、若槻地区では古くから相撲が盛んです。相撲文化の伝承のため、蚊里田八幡宮の土俵をお借りして子ども相撲大会をおこなっています。若槻地区には２つの小学校がありますが、別々の小学校の親子が相撲を通じて交流が始まる、といったことも耳にします。

部会員の殆どは現役の子育て世代のお父さんお母さんです。なかなか時間が取れず、これ以上行事を増やすことが難しいのが課題です。しかしイベントを通じて小中学生が地域の大人の顔と名前を覚え、普通に話せるようになる。これが青少年の健全育成にとってすごく大事なことです。これからも青少年と地域をつなぐ架け橋としての役割を、より強くするよう鋭意努力していきたいと思います。

「長野市子ども会キャンプを実施して」

長野市教育委員会家庭・地域学びの課　主事　神田華絵

長野市では、子どもの手による子ども会活動を目指し、先頭に立って活動するリーダーとなるために必要な力を身に付ける場として、子ども会リーダー研修会や子ども会キャンプを開催しています。これらのイベントでは、シニアリーダー（ＳＬ）と呼ばれる高校生たちが企画・運営を行っており、7月25日から26日にかけて青少年錬成センターにて子ども会キャンプを実施しました。7年ぶりとなる宿泊です。そんな久々の宿泊形式での子ども会キャンプの様子を紹介します。



今年度は、小学4年生から中学1年生までの29名が参加し、ＳＬ14名が企画・運営のすべてを行いました。

一日目は、緊張する参加者もいる中で、オリエンテーション・アイスブレイキングから始まり、自己紹介やレクリエーションを行いました。二日間共に過ごす仲間の名前を覚え交流するうちに、緊張も徐々にほぐれていきました。持参した昼食を食べた後、野外炊飯を行い、自分たちで夕飯を作りました。献立は、ライスバーガー、コンソメスープ、スモアといったなかなか野外炊飯で作ることがないものでしたが、チームごとＳＬを中心に調理して、美味しいご飯をみんなで食べることができました。そして、いよいよキャンプの目玉、キャンプファイヤーのスタートです。みんなで火を囲み、事前に練習したレクダンスをしたり、大きな声で掛け声をかけたりと、年齢の差を感じさせない一体感のあるキャンプファイヤーとなりました。

二日目は、ウォークラリーから始まりました。当初は、センターの敷地内を回る予定でしたが、直前に雨が降り出したため、急遽屋内で行うことになりました。突然の変更にも関わらず、ＳＬが急ピッチで準備をしてくれたおかげで、屋内でもチェックポイントのミッションをチームごと協力しながらクリアし、楽しむことができました。その後の工作では、牛乳パックを使い、それぞれ個性あふれる風鈴を完成させました。最後は、チームの垣根を越えて、思い思いのメッセージを書き合い、みんなで記念撮影をしました。

始めは緊張した様子の子も多く見られましたが、少しずつ仲良くなっていき、お互いに声を掛け合いながら協力する姿が見られ、子どもたちの成長を感じられるキャンプとなりました。

最後に今回のキャンプに参加された方、運営にご尽力された皆様に感謝するとともに、今後も青少年活動にご協力をいただくようお願いいたします。

『一日少年育成委員』長野市中心街を巡回指導体験

「巡回指導は子どもを捕まえにいくのではありません　対話をしに行くのです」

少年育成センター　小林寛二

長野市では、学校職員、地域の青少年担当の方によって、繁華街や子ども達の集まりやすい場所・お店を巡回指導しています。毎月定期的に、あるいは長期休業中や行事の折に、非行防止を兼ねて愛の声かけを行っています。

その巡回指導を体験してもらい、その意義を感じていただこうと、学校のＰＴＡの役員さんや市民の希望者の方に、年４回ほど「一日少年育成委員」として、長野駅周辺繁華街を回ってもらっています。

巡回コースの例

- 七瀬地下道
- コンビニ店
- 公園
- 長野駅
  - ・駐輪場
  - ・改札
  - ・ロッカー　他
- C-oneビル
  - ・アニメ店
  - ・カード店
  - ・ゲーム店
  - ・ライブハウス
- カラオケ店
- 駅前交番



「捕まえに行くのではありません　子どもと対話をしに行くのです」を胸に出発

参加の方からの感想

○巡回指導では、街中のどのような場所に若者が集まりやすいのかどうかということを学びました。自身が普段足を踏み入れることがない場所が多く勉強になりました。中学生のみでゲームセンターや買い物に来るということも現在では珍しいことではなく、親だけでなく、お店の方や地域の方、少年育成委員の活動を通して、子どもたちに目を配ることも大切だと思いました。

○今まで全く知りませんでした。このような巡回指導をしていたんだなと、とてもありがたく思いました。街には、危険な場所や誘惑がたくさんありますが、親が子どもに教育するだけでは聞かないこともあり、自分で体験し、他人から声を掛けてもらうことですんなり聞くこともあるのだと思いました。今の子どもたちは、とても大人っぽく年齢もなかなか見ぬけませんが、このような体験をして、街に出かけるときなど、子どもに関心をもって過ごそうと思いました。

○普段何気なく通っている道路の壁も一見しただけでは、ただ汚いなあ～で見過ごしていたが、犯罪・非行の種だと思うと直ちに直したいし、大人は、あなた方の行為に気づいていることを見せないといけないと思った。野放しにしてはいけないと感じた。駅前の店も興味のない所には立ち寄ったこともなかったが、カード専門店、プリクラの進化には、ただただ驚き、それを目当てに足を運んでくる子どもや成人の多さにも驚いた。私から見たら不健康不健全そうに見える店内で、楽しそうにカードゲームをする人たちの笑顔に、こういう世界もあるんだと受け入れないといけないのかと複雑な思いでした。

毎年30名近くの参加をいただいています。この体験活動の反響は大きく、学校に戻ったら体験したことを伝え、健全育成をみんなで考えたいと、毎回大変前向きな感想をいただいています。

巡回指導を行えばすぐに非行がなくなるというものではありません。しかし、子どもを理解するうえで大切な活動であり、何よりも親や大人が子どもへの関りを見返すうえで大切な情報や体験を与えてくれていると感じました。

青少年の非行を考えるときに、どうして非行に走る子と、思いとどまる子と別れてしまうのだろうかと思いますが。取り巻く環境は同じであるはずなのに。非行という一線を越える超えないはどこで違ってくるのでしょうか。

今回、地下道の壁にスプレーで描かれたアルファベット文字のようなものが、色違いで新しく描かれていました。



最近の様子をお聞きし、情報を掴むことも巡回指導の大切な活動です



消すことができなかった落書の横に、大きな落書きがされていました

恐らく真白い壁を前にして「してはいけないこと」と「誰も見ていない」「他の人もやっている」の狭間に身を置き、後者の気持ちに押し切られてしまったのではなかろうかと推測します。

消すことができなかった前の落書きが今回の引き金になっていなかったか、早速関係機関に落書き落としを依頼しました。今後も巡回指導で街の変化を見落とさず健全育成につなげていきたいと思います。

長野市中心街の巡回指導から

巡回していると



権堂商店街は、色々な店が軒を並べたアーケードがある街です。新しいマンションが建ち、今はホテルの建設が始まっています。人通りが多くなった印象を受けます。このアーケードを通ると気づくことがあります。ゴミが見当たりません。多くの人が行きかう場所ですが、たばこの吸い殻も見当たりません。きれいなものです。どうしているのか通るたびに気になっていました。すると、商店街の人たちが何気なく、ゴミやたばこの吸い殻を拾ったり水を撒いたりして掃除をしていました。

季節によって柱ごとに大きな花が飾られます。七夕祭りでは、幼稚園や保育園、小学校から地域みんなで作製した趣向を凝らしたオブジェや七夕が飾られていました。地域みんなで権堂商店街を盛り上げ守っているんだなあと感じます。



学校少年育成委員による巡回指導から気になること

学校少年育成委員による学区内巡回指導は学校が夏季・春季の長期休業中に行われます。その夏季休業中の巡回指導日誌に気になる声が寄せられています。

○「公共な場」という意識を持てない中学生に苦慮している（椅子を並べて寝る、移動した椅子を戻さない、荷物を置いたまま長時間外出する、ゴミを見えない所に隠しもってかえらない）小学生のうちから公共の場でのルール、マナーをしっかり指導してほしい。



○一人の子がプリペイドカード千円を３枚購入し、２枚を他の子にその場であげていて不審に思った。

○お店で購入したものを駐車場で食べ、ゴミをそのままにして帰る子が時々いる。ゴミは持ち帰ってほしい。

○ゲームセンターに、お金を持たずにくる子がいて、メダルゲームの下をあさってメダルを探したり太鼓を勝手にたたいたりしている子がいたので声をかけた。

○通常の下校時、集団でコンビニにきて、だまってトイレを使ってだまって帰っていく。きちんとあいさつをして使ってほしい。

など、多くの意見をいただきました。また、交番から最近「自転車の盗難が増えてきている。自転車を置くときは、必ずカギをかけること」を指導いただきました。同時にヘルメットも盗まれないように施錠したいものです。少年育成センターでは、巡回をしながら気になる放置自転車は交番に通報しています。

また、夏休みが過ぎたあたりから、地下道の落書きが目立ち心配です。





編集後記

今年もコンビニ店、書店などの立入調査が佳境に入ってきました。

昨年は、未成年者がたばこを買いにきたり食べた物を散らかしたりと、これまでと違う子どもたちの様子を聞くことができました。今年も未成年者がたばこを買いに来ることは減っていないようです。「たばこ」の話が出てきたのはこの２年くらいです。また、落書きも始まってしまいました。

コロナ禍の数年のように「何もないだろう」という見方では、これからが心配になりそうです。

少年相談

困ったら…困る前にも

『青少年の相談』は少年育成センターへ



子どもの非行問題や生活に関すること、またネットトラブル、ゲーム依存にかかわる相談を受けています。お気軽に連絡をください。来所相談も受け付けています。

228−8588

※ 匿名でけっこうです

月～金曜日　午前８時30分～午後５時15分（祝日、年末年始を除く）